

## 金属部会長便り（2021年8月号）2021年8月7日発行（初号）

### 1 直近の活動

- 7月25日（日）定例部会講演会（松下氏）；講師の熱意のこもった発表。動画公開も行います  
定例役員会；今後の部会運営案の討議と意思決定
- 7月31日（土）新CPD制度説明会（田中、笹口）；2023年までのCPD技術士申請なら2年で可能らしい。
- 8月01日（日）金属部会執行部会；幹事増員討議、今後の行事など討議
- 8月06日（金）全国大会関連3部会合同部会打ち合わせ（田中、笹口）11月27日CPD行事から申し込み
- 8月08日（日）幹事候補者説明会、YES-Metals!幹事会

### 2 今後の活動予定（直近二ヶ月分）

- 8月22日（日）定例部会講演会（8月）坂本一三氏。「IEC 国際試験方法の開発」滅多に聞けない基調な講演
- 9月05日（日）金属部会執行部会（9月分）
- 9月14日（火）部会長会議
- 9月26日（日）定例部会講演会（9月）長屋五郎氏。「鋼橋の腐食環境評価による防食法について」時代要請

### 3 所感

部会長を拝命して瞬く間に1ヶ月たちました。前任の小林前部会長の引き継ぎ資料が具体的かつ実務的に整備されており、なんとか役目が果たせています。共に就任しました3副部会長の頑張りや支援、執行部会での真摯な討議もありがたいです。部会集団執行体制が何とかスタートしました。そうそうYES-Metals!も再始動します。

技術士会は、これから半年にうちに新CPD制度への以降、新CPDシステムへの乗り移りなどが予定されています。金属部会のメンバへの変更への抜け漏れが無いように情報提供に努めてまいります。

金属部会は、11月の三部会合同部会や1月の吉武記念講演会など新たな活動を予定しています。多くの金属部会員、金属部門の方の参加を呼びかけます。来年からは定例部会に加えて、セミナーや勉強会も開催します。

### 4 紹介

今回は、部会長を拝命しました田中和明の自己紹介です。趣味、興味全開ですみません。

#### 【自己紹介】

1956年生まれ、65歳。大阪府出身。大学では資源精製工学専攻（鉱山冶金）。柔道部。B型申年天秤座です  
日本技術士会には、1996年入会（40歳）。仕事相手の素晴らしい方が技術士だったご縁で知り、即受験。

2005年よりアグネの月刊誌金属に記事を半年連載、2006年1冊目「金属の基本と仕組」出版。今月出版した「金属の基本がわかる事典（第2版）」で11冊目。書籍とWEB、YouTubeの融合にトライしています。

2008年、YES-Metals!田中、笹口、渡辺、阿部の4名で設立。部会長と役員会の全面支援で発足できました。

2015年より金属部会副部会長。宴会と見学会、合同部会など行事担当。吉武先の優しさと周囲の協力で感謝。

2021年、金属部会長立候補、拝命。青天の霹靂の感がありますが、諸先輩のご功績に恥じぬよう精進します。

#### 【興味】

金属の歴史、鉄鋼の歴史に興味があり、書籍収集、遺跡めぐりをしています。収集した古書はホームページにて公開中です。鉄鋼遺跡めぐりもコロナ前まではヨーロッパを中心に独逸、仏国、英国などで現地調査をしたり、国内の古代遺跡跡などを巡ってきました。これはいずれ写真集として出版したいと思っています。

日常生活のモットーがエコ。電気エコ、ガスエコ、旅行エコ、書齋エコなどを実践中。電気自動車、太陽光発電の組み合わせ1ヶ月電気料金3000円は工夫の塊。省エネルギーが大好きです。とにかく安く海外に出かける旅行エコが趣味。フランスの全部込みで29800円が最安値で、これをベンチマークに毎回工夫。書齋エコで所蔵本の大半がiPadの中へ。数年来エコ筋トレにハマっており、夫婦で毎日ジム通い。2人でひと月何と3500円。

#### 【金属部会への思い】

四半世紀前に初めて参加して以来、諸先輩方が築いてこられた金属部会の伝統を目の当たりにしてきました。この伝統を受け継ぎ、更にコロナ前提のゼロカーボンの時代にマッチした部会運営を行なっていきます

## 1 直近の活動

- 8月08日（日）金属部会幹事候補者説明会（第1回目）6名参加。全員の積極的な議論が印象的。
- 8月12日（木）東京 STAR ラジオ収録。技術士会事務局と部会運営方法について意見交換。
- 8月15日（日）金属部会幹事候補者説明会（第2回目）1名参加。ありがたいことに参加してもらえそう。
- 8月21日（土）YES-Metals!（8月）23名。阿部真丈氏「水素吸蔵合金の歴史と最新の動向」CPD 講演期待！
- 8月22日（日）定例部会（8月）58名。坂本一三氏「IEC 国際試験方法の開発」金属屋には夢の時間だった。
- 8月27日（金）東京 STAR ラジオ放送。21時～生まれて初めてのラジオトーク。でも癖になる面白さかも。

## 2 今後の活動予定（直近1ヶ月分）

- 9月05日（日）金属部会執行部会（9月分）今回も議題たくさん。幹事候補者もできるだけ参加してもらおう
- 9月12日（日）金属部会2019年登録者交流（24名対象+執行役+幹事候補者）
- 9月14日（火）部会長会議
- 9月18日（土）YES-Metals!（9月）会合。田中講演「新刊書、聴けばお徳が盛りだくさん。出席者特典有り」
- 9月19日（日）金属部会2020年登録者交流会（18名対象+執行役+幹事候補者）
- 9月26日（日）定例部会講演会（9月）長屋五郎氏「鋼橋の腐食環境評価による防食法について」時代の要請
- 10月03日（日）金属部会執行部会（10月分）
- 10月10日（日）金属部会2021年登録者交流会（17名対象+執行役+幹事候補者）

## 3 最近の動き

コロナ禍で、これまでの金属部会の動きがリアルからWEBに移ってきました。中でもこれまでの新人歓迎会は残念ながら中止せざるを得ませんでした。一方、2019年から2021年8月までの金属分野の新入会登録者は、なんと59名に及びます。金属部会も遅まきながら、準備が整いましたので、9月にこの3年間の新規登録者の顔見せWEB会合を企画します。**年度毎に集まりましょう**。都合が悪い方は別の年次での参加でも結構です。また会員が全国に広がっているため、現在進めている地域幹事（候補）の皆さんも会合にでて頂きたいですね。制約条件を嘆くのではなく、チャンスとして捉え、まずは活動を全国に広げ、新しい金属技術士のネットワークを作り上げていくことが、これからの活動を進める第一歩です。新会員のみなさんの積極的な参加を期待します。

## 4 技術士活動

◆みなさん、今年度の技術士二次試験問題はご覧になりましたか？見ていない？なんで？関係ない？いやそんなことはありません。少なくとも問題Iは、現在の我々の直面している課題を取り上げていますよね。技術士たるものそんなの知っているのは当たり前だとおっしゃるかもしれませんが、その当たり前が様々なレベルで理解されているのも事実です。私も、考え込まれます。◆今年は、I-1は**カーボンニュートラル**でした。（1）カーボンニュートラルの実現に向けて、金属材料産業に関わる技術者としての立場で多面的な観点から問題を3つ抽出し、観点を明記の上課題内容を示せ。（2）最重要課題の複数対策を述べよ・・・そして、リスクアセスメントと技術者倫理、SDGsの観点・・・まさに現在、私たちが直面している課題です。◆仕事と関係ないとかそんなことを考えるのは試験の時だけとは言わないでくださいな。試験問題へ答えを持っているのも金属技術士に求められる要件の一つですよ。私は、試験問題はアンタッチャブルではないと思います。議論のきっかけだと思えます。金属部会も、毎年の二次試験問題に対して、本気で答えを出して行きませんか。どうすべきかを個々が考え、発言し、切磋琢磨することで議論は広がっていきます。◆例えば、二酸化炭素の回収はできたとしてどうやって運びますか？水素を輸送したり貯蔵するには？ガスの鋼材への影響は？◆二酸化炭素がニュートラルになった世の中を思い描くのは大切ですが、技術屋はその過程にも責任があります。ガスを運んだり貯蔵したりするためにどれくらい膨大な設備と金属素材がいるようになるのでしょうか。思いつくだけでもやるべきことが浮かんできます。◆今年の二次試験問題を起点にしても、いろんな金属の課題は見えてきます。まずは考え続ける勉強会を立ち上げませんか。これって受験生に質問された時にも役立ちますよ。賛同者をご連絡を。

## 1 直近の活動

- 9月05日（日）金属部会執行部会（9月分）今回も議題たくさん。幹事候補者もできるだけ参加
- 9月12日（日）金属部会2019年登録者交流（4名+執行部+幹事候補者）
- 9月14日（火）部会長会議。初参加。色々な人がいて面白かった。
- 9月18日（土）YES-Metals!（9月）34名。田中講演「新刊書、聴けばお徳が盛りだくさん。出席者特典有り」
- 9月19日（日）金属部会2020年登録者交流会（6名+執行部+幹事候補者）
- 9月26日（日）定例部会講演会（9月）長屋五郎氏「鋼橋の腐食環境評価による防食法について」92名。

## 2 今後の活動予定（直近1ヶ月分）

- 10月03日（日）金属部会執行部会（10月分）今後の行事予定の確認。新入会者のケア。勉強会の相談。
- 10月10日（日）金属部会2021年登録者交流（11名参加+執行役+幹事候補者）
- 10月16日（日）YES-Metals!（10月）会合
- 10月17日（日）金属部会2022年CPD講演者への手順説明会
- 10月24日（日）定例部会講演会（10月）泉川大輔氏「金属加工中のプレス加工」。引き続き「新CPD制度説明会」これは絶対にナマで説明を聞いた方がお徳。システム登録講習会は説明会受講前提で別途開催します。

## 3 最近の動き

YES-Metals!が熱くなってきた。コロナ禍で少しペースダウンしたかのように思えたが、YES-Metals!幹事の踏ん張り、勢いを盛り返しつつある。新しい参加者や修習技術士の参加もあり、自己紹介も生き生きしている。WEB会合で実に数十年ぶりに再開したという先輩後輩がいたりもする。恒例の合格体験談もこれから始まる。モチベーションアップには最適だ。金属部会若手にはこのYES-Metals!の体験談で試験を突破した先人も大勢いる。

◆新入会者とのWEB顔合わせも進んできた。WEBでしか会合が開かれなかった制約を全国の人が会える利点に変えた事例だ。

◆9月の定例部会はどうとう申し込みが100人を超えた。現在のZOOM契約の最大人数をこれから超え続けることも予測され、300人までのビジネス版にアップグレードしなければ対応できないんじゃないかと懸念している。まあ、11月の桐野先生講演の三部会合同部会なんか絶対100人限定なんて超えてしまう。ここで超えたら考えたい。

◆10月の講演会の後に新CPD制度の説明を本部の人に説明してもらおう。これは、絶対に聞き逃さないと思う。正直少し前、部会長会で話を聞いた和鐵も、もう一度聞かなければと思っている。一回で理解できる？マニュアル読めばわかる？冗談じゃない。肉声で聞かなければわからんことはこの世にゴマンとある。新CPD制度もその一つだとおもう、多分。金属部会会員の参加を強く、強くお勧めする。

## 4 和鐵管見

◆管見とは耳慣れない言葉だ。この言葉は和鐵の尊敬する大先輩がご講演で使われた言葉だ。先輩は、数年前に亡くなられたが、晩年がすごかった。

◆知り合った時とついでに80歳を超えていらっしやって静岡に住んでいらっしやった。葦山の反射炉の明治産業遺産の登録活動の時に知り合った静岡の方からの紹介で、同じ会社の大先輩だということで非礼も弁えず、出張帰りに会いにでかけた。和鐵のいた製鉄所で日本で初めてIBMコンピュータを導入し24時間稼働させた方だ。

◆JR静岡駅前でお会いして、すぐ意気投合した。話しているうちに、この話は日本の鉄鋼業の歴史の一頁だと確信した和鐵は、鉄鋼協会のシンポジウムで講演をしていただくことにした。東京までお越しいただき打ち合わせを重ねた。直前に入院されて手術されたと聞いた。体が弱っているとご本人から連絡があった。電話口で「先輩なら必ずやれますよ。ご講演と冊子をお待ちしてます」と励ました。

◆1月に東京でご講演いただいた時、和鐵は運悪くインドにいて聞けなかった。5月に会いに行くとても喜んで頂いた。その秋冊子に載せる原稿を書き上げてしばらくして、奥様から先輩が亡くなられたとのご連絡があった。お話では不治の病を何年も患っていらっしやったという。ちっともそんなそぶりはなかった。「和鐵さんとお会いしてから、本当に生き生きとしていました。最後にもう一度、やってきた仕事の話ができるよ、喜んでいましたよ」

◆技術者の生き様を身を以て見せていただいた先輩への感謝を込めて、管見という言葉を使いたい。

## 1 直近の活動

- 10月03日（日）金属部会執行部会（10月分）今後の行事予定の確認。新入会者のケア。勉強会の相談。
- 10月10日（日）金属部会2021年登録者交流（10名参加+執行役+幹事候補者）
- 10月16日（日）YES-Metals!（10月）会合22名参加。
- 10月17日（日）金属部会2022年CPD講演者への手順説明会
- 10月24日（日）定例部会講演会（10月）泉川大輔氏「金属加工中のプレス加工」。参加者94名の大盛況
- 10月31日（日）金属部会執行部会（11月分）

## 2 今後の活動予定（直近1ヶ月分）

- 11月7日（日）三部会合同部会打ち合わせ
- 11月20日（土）YES-Metals!（11月）吉村氏、荒木氏講演
- 11月25日（木）全国大会部会
- 11月26日（金）全国大会総会
- 11月27日（土）三部会合同部会

## 3 最近の動き

◆学会の時期がやってきた。鉄鋼協会と金属学会の秋季講演会に参加したが、最近の話題は面白い。オンライン開催なので参加費も半額になり、しかも聞きたいセッションが自宅に居ながら聴講できる。◆脱炭素の討議も今後の日本鉄鋼業の議論も、なんだか遠慮がちな気がしてならない。水素製鉄でもアンモニア製鉄でも再生可能エネルギー製鉄でもいいが、なんだがまだ靄の中にいるような気分である。まさに今が過渡期なんだなあ実感する。◆研究動向も、ハイテンと水素脆化の話が主流で、なんだか昭和の終わりの高力ボルトのデジャビュのような議論が続いた。水素って案外いろんな材質に影響している。これが分かっただけでも面白い。一例をあげると転位の移動に抵抗をもたらすコットレル効果ってあるのだが、教科書では炭素や窒素って習った。でも一番強烈に効くのが水素。水素の存在はより高温での転位の移動を妨げる、つまり常温韌性や高温韌性を悪化させる。もう少し踏み込んでいうと $vTrs$ を上昇させてしまう・・・◆もちろん理屈も観察技術もシミュレーションも学生時代に比べて格段の進歩で、綺麗に着色されたゲーム画面様の上に組織や転位が動く様は一見の価値がある。

## 4 和鐵管見（その2）

◆巷でのSDGs議論やCOP26の議論が取り沙汰されている。石炭や石油はいきなり悪者扱いをされてさぞ迷惑顔だろう。英国で20数人の若者が集まって「掘り出すのをやめろ」とプラカードを掲げているのが記事になっている。◆それが原因とは言わないが、最近、石炭や石油の値段が爆上げだ。なんでも石炭火力が主力の国では電力不足が心配されているそうだ。石油はエネルギーだけではなく化学製品の原料でもある。こういう原材料の値段が上昇することは決して社会に良い影響を与えない。◆今こそ、技術者の出番ではなかろうか。科学者の出番かもしれない。もし超電導物質の作動温度がマイナス50℃まで上昇したら二酸化炭素は資源になる。そして世界が変わる。再生可能エネルギーもそうだ。風力や太陽光のエネルギー投資効率はこの10年で原子力や火力よりも安価になっている。こういうものを生み出してきたのは、環境を心配する人の後押しもあったかもしれないし、政治家の頑張りもあったかもしれないが、実際のところは技術者だ。技術者が技術を使い環境問題に取り組んでいるからこそ実現できるのだ。◆現在の技術の潮流は、AIやIoTなどソフトの分野に目が向いている。しかしこれらは一言で言えば枠組み内、今あるものの中での最適化だ。今求められているのは、最適化ではない。ブレークスルーだ。現状を打破するのは形あるマテリアル、リアルの世界の中でしか達成できないのは明白だ。

### 1 直近の活動

- 11月7日(日) 三部会合同部会打ち合わせ
- 11月20日(土) YES-Metals! (11月) 吉村氏、荒木氏講演
- 11月25日(木) 全国大会部会分科会
- 11月26日(金) 全国大会総会
- 11月27日(土) 三部会合同部会(申し込み150名) 桐野先生の講演に感銘を受けました。

### 2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 12月05日(日) 執行部会
- 12月18日(土) YES-Metals! (12月)
- 12月25日(土) 部会会員向け現行CPDシステム操作講習会
- 12月26日(日) 金属部会CPD講演会・役員会

### 3 最近の動き

◆繊維、化学、金属の三部会合同会議は、申し込み150人、実質126人の大盛況であった。基調講演の桐野先生の江戸時代のSDGsのご講演の面白いこと。ああいう話し方がいいんだなあ実感する名講演であった。内容も良かった。◆SDGsは国連が主導してやってきた。しかし、最近では地球温暖化とコロナが幅を利かせ、2030年までの活動期間は、もう2年もロスタイムが続いている。サッカーばりに「ロスタイム2年」と延長してもいいんじゃないかと思う。◆折角、世界中の人々が力を合わせようとした矢先、国を閉ざし、石油や石炭の値段が乱高下する事態が続いている。世界中が自国ファーストをコロナで余儀なくされている。◆席上質問で、規模が小さいコミュニティでのSDGsと全世界を相手のSDGsは違うのではという質問があった。至極、もっともな質問だ。

### 4 和鐵管見(その3)

◆衆議院選挙も終わり、世の中少しずつ、定常状態に戻りつつあるように思う。毎日「咲いた、最多」と叫んでいたテレビも落ち着き、やれ油まき放火だの包丁だの踏み間違いだのといったニュー

スが幅を利かせ始めた。◆「石炭やめろ」「石油は敵だ」と言っていたマスコミや、それに踊らされていた我々のなんと忘れっぽく、変わり身の早いことか。寒くなってくると温暖化の話題は迫力がなくなり、それより石油を増産してくれないので国家備蓄石油の放出！とか石炭の増産はどうなっているのだと、冬支度の議論ばかりが目立つようになった。◆今年の流行語大賞を選ぶなら「コロナがサイタ」ではなかろうか。あの「いいじゃないの」で一世を風靡して夏にピークを迎え、暮れに流行語大賞をもらい、翌年消えていった故事を始め、あまたの流行語が翌年雲散霧消した。ただ脱炭素やSDGsは、流行語大賞にはいけない。でも、ひょっとしたらもっと酷いことが起こり「そんなのおとといきやがれ」になりかねないかもしれない。富士山の噴火か首都直下型かはたまた南海トラフか、AIの反乱なのか、小惑星の衝突か、ノストラダムスの周回遅れの予言的中なのか、それは定かではない。オリンピック前には何かが起こると思っていたが、正直、「復活の日」ばりの疫病とは思ってもよらなかった。◆コロナ激減のこの一瞬は間違いなく事実だ。これは素晴らしい日本人の行動の成果だ。しかしマーフィーの法則によると、悪いことは必ず起こる。デルタが寝静まった東京でも、オミクロンは確実に侵入してくるだろう。今しばらく、公共ルールや通達はきっちり守り、社会人としての行動をとりたい（今回は少々ふざけ過ぎているかもしれませんが、お許しを）

## 1 直近の活動

12月05日(日) 執行部会

12月18日(土) YES-Metals! (12月)

12月25日(土) 部会会員向け現行CPDシステム操作講習会

12月26日(日) 金属部会CPD講演会・役員会 (89名参加)

## 2 今後の活動予定 (直近1ヶ月分)

1月09日(日) 執行部会

1月15日(土) YES-Metals! (1月)

1月23日(日) 吉武記念講演会 (CPD基調講演、吉武先生業績、温故知新・技術士会事始め)

## 3 最近の動き

◆最近の金属部会定例部会の参加申し込みが100名を超えてきた。部会員の皆さんや部会以外の皆さんがご興味を持っていただけることに感謝したい。CPD行事は、講演される方にはご準備にご苦労を掛けていることはもちろんだが、それにも増して大勢の方が参加いただけることが励みになる。

## 4 和鐵管見 (その4)

◆金属は、全ての産業分野と関係している。この当たり前の事実は、実は大きな事実だ。金属は、あらゆる部門とコラボできる可能性を秘めている。そして、それは部会の会員数の多い少ないという表面に見える現象だけではなく、実はその裾野はとてつもなく広く、技術士会全体に広がっているということになる。◆金属の特性は、多様性、融合性、変態性、それに触媒性だ。生まれは同じでも異なる性質を示す多様性、あらゆるものを飲み込み融合してしまう融合性、変幻自在に形を変え、性質まで変える変態性、そして自分がいるだけで周囲が変わる触媒性、金属はこれらの性質を持つ。◆これらは、素材だけの話ではない。組織論も同じだ。金属部会は、その会員誰一人として同じ仕事をしてきた人はいない。もちろん金属素材を扱ってきたという土俵は同じでもだ。意識としては、それぞれが独自の技術的境地を開いている。◆金属部会として集まっても専門性は全て異なる。すごいことだ。そして、それぞれの専門性は金属部会という土俵で融合している。我々が、金属部会のCPD講演を聞くと、「初めて聞いた」「そんな考え方があるのか」と毎回感じるのはこの多様性と融合性の賜物だろう。◆同じ金属素材でも、技術分野や産業分野が異なれば、到底同じ素材の議論をしているように感じられないのではなかろうか。金属加工、表面技術、溶接技術が同じ金属技術だと頭ではわかっていても直感では別次元の会話を聞いているような気になる。少なくとも和鐵はそう感じる。◆触媒性は、これからのSDGsや脱炭素社会で最も求められる性質だ。自動車、建築、機械に貢献できる金属素材というだけでなく、水問題、エネルギー問題、持続的社會に貢献できる金属素材を、自動車産業に生かすとしたらどのような解があるのか。それは、従前の技術体系だけでなく、ひょっとしたら金属と生物工学、金属と衛生工学、金属と林業の中で育まれてきた技術に解があるかもしれない。こういうことを技術士会全部会に対して提言できるのは金属部会くらいではなかろうか。少なくとも素材では最も有望な分野の気がする。◆コロナに明け暮れた年月が終わり、2022年が始った。金属部会は、これからも多くの部会員、そして多くの産業分野の部会の方々に対し、技術的門戸を開いていく。これが技術士会、ひいては日本産業分野の触媒になりうる金属部会の使命であり、部会活動が益々盛んに大きくなる目的である。皆様、新年明けましておめでとうございます。

### 1 直近の活動

- 1月09日(日) 執行部会
- 1月15日(土) YES-Metals! (1月)
- 1月23日(日) 吉武記念講演会 (94名参加)

### 2 今後の活動予定 (直近1ヶ月分)

- 2月06日(日) 執行部会
- 2月19日(土) YES-Metals! (2月)
- 2月20日(日) 新CPDシステムオンライン講習会
- 2月27日(日) 金属部会定例会 (CPD講演、新技術紹介、委員会報告)

### 3 最近の動き

◆年間最大行事と銘打った吉武記念講演会が、金属部会員の皆さん、講演者の皆さん、他部会やこれから入会の皆さん、ご招待の皆さんのおかげで、開催できたこと、心の底から感謝します。

◆2年前の12月に記念講演会や温故知新の構想を、役員会でお話しさせていただいたとき、話している当人自身が本当に可能なのかと思いつながりの説明だった。しかし走り始めると、関係者の皆さんひとりひとりが記念講演会を盛り上げて頂く工夫をこらして頂いた。自分で言うのも変だが「金属部会の皆様はノリがいい」と思う。これまで、金属部会を引っ張って来ていただいた役員会を中心としたベテラン層も、最近、コロナの影響でオンライン会合になって知り会えた皆さんも一丸となって会の進行に協力していただいた。◆もちろん反省点も多々ある。いくら事前練習や準備をしても、何故だか本番になるとシステムが固まったり、勝手が違ったりする。この処置で時間を取られたのは事実だ。これは反省点。◆しかし私の考えでは、トラブルのは当たり前。大切なのは、トラブルした時どう対処するかを想定しておくことだと思う。今回の原稿トラブルでも、若干のもたつきがあったものの、予め準備してあった次善策でなんとか乗り切れた。◆不測の事態とつい言いたくなるが、「不測」は、予め想定しておくから不測であり、想定外なのであって、想定もせず、準備もしないでトラブルを迎えるのは、不測ではなく、怠慢であり不備だと思う。こういう観点からすると、今回は「不測の事態が起こった」と胸を張っていえるのではなかろうか。

### 4 和鐵管見 (その5)

◆最近、東京で出版社の編集者と打ち合わせをした。こういう時期なので、東京フォーラムの喫茶店のオープン席で話をした。◆話題は多岐にわたったが、久々の楽しい時間であった。「次の新刊書は売れる本でいきたいんです。例えばこの本のような」見せられたのは、「銃・病原菌・鉄」他には、最近のベストセラー「世界史は化学でできている」も見せられた。そう言えばどちらの本も面白い。「うーん、軽いタッチの文章と柔らかい挿絵ですか」◆気になったのは、「高校生でもわかる」というフレーズだ。これは、素人や門外漢でもわかるように、というニュアンスなのだろう。でもね、金属の面倒な用語やメカニズムの説明をせず、おしゃべりだけでわかった気にさせるという販売戦略はいいが本としては少々問題があるような気がする。がっぷり四つでもいいんじゃないか。◆さはさりながら、手にとって購入してもらわなければ、読者に内容が伝わらない。つまり売れなければ伝わらない。物書きの悲しい習性で、言われれば応えようとしてしまう。でも二番煎じは真っ平だ。ということは、ハードボイルドな内容で手に取りたくなる本を書けという事か。難しいなあ。和鐵



## 1 直近の活動

- 1月27日 吉武記念講演会 94名の参加者。記念講演、温故知新の録画動画は公開準備中。
- 2月1日 月間技術士に金属部会協賛広告掲載 (半ページ) 複数部会が広告掲載。
- 2月6日 金属部会拡大執行部会 (執行部+地方幹事) 地方会員との交流会を拡大します。
- 2月19日 YES-Metals! 123回会合中国本部川本明人技術士「社会材料学」は面白いテーマ
- 2月20日 資源工学部会との合同部会打ち合わせ。9月11日オンライン開催予定。東大岡部先生講演+部会紹介+セッション討論企画。岡部先生の話をお聴きするなんて超ラッキーな合同部会です。
- 2月20日 新CPD行事システム登録オンライン説明会 42名の参加者。金属部会会員限定で収録録画 (12月の現行システム、2月新システム) 希望者に公開します。動画視聴するとシステム操作で登録ができるようになります。2020年度、2021年度の金属部会主催のCPD行事内容は近日公開しますので、登録するときの参考にしてください。もちろん登録できるのは参加した行事だけです。金属部会2021年度申請ボタン押し100人達成キャンペーンを4月に実施したいと思えます。3月中に2年分のシステム登録をしてくださいね。
- 2月22日 部会長会議 2月26日 金属部会地方活性幹事第一回連絡会
- 2月27日 金属部会定例部会。ステンレス鋼、水素製造。読むと聴くでは大違い。89人参加。
- 3月5日 金属部会幹事会。審議項目17コ。どんなことも議論していくと進め方が見えてきます。

## 2 今後の活動予定 (直近1ヶ月分)

2022年3月13日 (日) 金属部会「金属CPD技術セミナー (溶接技術)」

座長 笹口裕昭氏 講師 磯部永舟氏、大塚陽介氏、藤田善宏氏

2022年3月27日 金属部会「講演会・定例部会 (3月度)」(ZOOM 使用) 有料

講師; 川村明氏 川村技術士事務所演題: 一金型・生産技術者の変遷と摩耗

同時開催; 技術者倫理講習会 講習講師: 浮穴俊康氏 (倫理委員会委員)

## 3 最近の動き

◆大雪、北京にオミクロン、ウクライナもインフレも心配。心配しつつ今年も早や6分の1が過ぎました。頭から脱炭素やSDGsがスカスカ抜けていく気分。桜は近いが対面はまだ遠いかなあ。

## 4 和鐵管見 (その6)

◆CPDの登録制度が4月から変わる。わかりにくいとか、意義はなにかとか聞きたくなる気持ちはわかる。和鐵もその一人だ。でも、変わると言ってもシステム入力時の重みつけとか合計時間とか枝葉末節の議論だ。◆我々は何かが変わるとき、本能的に身構えてしまう。これは本能的だから仕方がない。でも、本当のところは、CPDシステムに入力するのが面倒だったり、そんな作業をしたこともないし、やってこなくても困らなかった、なぜやるんだということではなからうか。◆習うより慣れろとは言い古された言い方だ。でもシステムにはこの言い方は通用しない。「慣れる前にまず習おう」◆どんなに優秀で性格の良い人でも、システムを扱うにはまず教えてもらわなければ手も足も出ない。システム入力CPD登録の第一歩なら皆で教え合おう。そして登録して申請してみよう。技術士会への申請費用はかからない。◆金属部会は、4月にCPD登録申請100人達成キャンペーンを行いたい。色々意見はある。和鐵にも言いたいことは山程ある。でも、それも大勢の仲間が申請した上での意見なら意味があるし迫力もある。CPDシステムの前で、一人で悩んだりすねたりしても何も進歩しないし、変えられない。面倒上等、皆でやってやろうじゃないですか。

## 1 直近の活動

3月12日(土) 日本熱処理技術協会5月交流会打ち合わせ。参加費無料で決定。5月8日です。

3月13日(日) 金属部会「金属CPD技術セミナー(溶接技術)」81名

座長 笹口裕昭氏 講師 磯部永舟氏、大塚陽介氏、藤田善宏氏

3月18日(土) YES-Metals! (第124回) 会合 22名

3月19日(日) 資源工学部会合同部会打ち合わせ

3月27日(日) 金属部会「講演会・定例部会(3月度)」(ZOOM使用)有料 79名

講師;川村明氏 川村技術士事務所演題:一金型・生産技術者の変遷と摩耗

同時開催;技術者倫理講習会 講習講師:浮穴俊康氏(倫理委員会委員)、新技術紹介

## 2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

4月3日(日) 金属部会幹事会。

4月23日(土) 金属部会「新合格者(2019-2021年度)歓迎会」無料開催。YES-Metals!共催。

4月24日(日) 金属部会2022年春の見学会(東京外郭放水路=地下神殿)

## 3 最近の動き

◆テレビのニュースはほぼコロナとウクライナ。情報遮断とZOOMとツイッターの情報戦の様相。季節は変わり、桜並木はちょうど満開になり新学期や新入社のお話は昔ながらの風物を思い出させる。新合格者からの便りもちらほら舞い込んできた。数年前の日常がどんなに恵まれていたのか、思い知る今日此頃だ。◆3月も金属部会の活動は皆さんのご協力で活発である。3月13日には初の試みである金属技術セミナーを開催したところ、「溶接技術」というテーマもよく大勢の参加者があった。定例部会でもCPD講演で技術者倫理の講義を企画したところ、実に我々感覚の講話になり大満足であった。講演者に感謝。

## 4 和鐵管見(その7)

◆2022年が始まり、もう4か月目に突入した。昨年企画した金属部会行事が続々登場しはじめて正直案内を出す側も混雑が増してきた。そういう中で様々な行事によく参加していただける皆さんには本当に感謝の念でいっぱいだ。◆行事は定期的に行われていることが重要と考えている。それも固定の曜日に月例が良い。和鐵が参加する側でいた時、正直タイミングが合わずパスすることも多かった。今のようにオンラインではなく機械振興会館へ出かけるとなると、タイミングが重要になる。で、一回パスしたら隔月なら次は4ヶ月後、3ヶ月単位なら半年後になってしまう。これでは習慣化は難しい。毎月ならまあ、翌月でればよい。こう感じていた。◆でも言うは易し、井上靖。いざ実行するととなると、これが結構すごいことになっている。毎月開催とは、企画しながら準備して実行してまとめる。これが毎月エンドレスに続く。幸い、委員会活動の広報委員で月刊PEを4年作っていたのでエンドレスルーティンには慣れっこになっていた。あのハードな経験は、現在の金属部会のハードな行事に生かされている。◆もちろんいろんな行事は役員会の幹事団が引き受けてくれているので回っている。そういえば執行部のメンバーは広報委員出身者が多いような気がする。あの体験に比べればなんてことない。一ヶ月のメールの発信が数十回なんて、広報委員の一週間の送受信件数に比べればかわいいもんだ。◆まあ、忙しさを是とするのもいかなものとは思ふ。しかし、金属部会を活性化することが技術士会の活性化につながり、世の中の役にもたてるはずだという、面接試験でこんな答えをしたら一発で不合格になるような薄ぼんやりした抽象的な動機と信念で運営に当たっている。こんないい加減な和鐵を支えてくれる執行役や幹事団には本当に感謝している。それにも増して、行事に参加してくれる皆さんにも感謝だ。参加者が多いのは励みになる。

没原稿◆独国が石炭火力発電を動かすという。少し前まで仏国の原子力とロシアの天然ガスで電力をまかない温暖化対策が素晴らしいと言われていた。それに引き換え、高効率石炭火力発電にこだわった日本は、国際世論に迫られ石炭火力放棄を宣言させられた。◆脱炭素社会もSDGsも重要なテーマであるし、地球の将来のためには歩みを止めてはならない。しかしそれにまっしぐらと言うわけにはいかない。我々の活動も世界情勢とは切り離せない。◆トランプの自国ファーストに反発した人々もコロナで国境を閉ざしワクチンの争奪戦を繰り広げたことに何も言わない。噴火で壊滅的な打撃を受けた島国も一瞬話題になっただけだ。こんどの戦争もしかり。歴史的に見れば、別に今の状況は異常でもなんでもなく、繰り返されてきた行為の延長かもしれない。◆ただ過去と異なるのは、情報技術が進化し、情報の寡占がしにくくなっている。また技術の進化も急激で、古い技術体系では時代に取り残される。鉄の塊の戦車と華奢なドローンや持ち運び可能な兵器というわかりやすいの戦いを見るにつけ、こういう技術競争がいたる所で起こっているのだろうと想像してしまう。◆我々は技術士だ。新旧の技術競争がますます激化しているフォールドで自分たちがなすべきことをなさなければならない技術者でもある。どんなフォールドであろうと、常にベストを尽くすべく常に精進を怠らず、自らの仕事に改善・点検をし続けなければならない。◆技術者は発明家や革命者である必要はないと思う。既存の技術体系を習得し、それに自らの経験を付け加え、後世につながるのが技術者ではなかろうか。その技術体系にいくばくかの倫理観を付与する。◆今や、全体主義や資本主義などといった国単位で色分けされる対立的な社会構造は意味がなくなってくる。(論旨不明で以下続かない・・・。誰か続きを書いてくれないかなあ)

## 1 直近の活動

4月03日 (日) 金属部会幹事会。

4月17日 (日) 金属部会CPD登録申請100人キャンペーンオンラインみんなで登録会合 **12名参加**

4月23日 (土) 金属部会「新合格者 (2019-2021年度) 歓迎会」。YES-Metals!共催。 **新合格者9名参加**

4月24日 (日) 金属部会2022年春の見学会 (東京外郭放水路=地下神殿) **18名 (内新合格者3名)**

## 2 今後の活動予定 (直近1ヶ月分)

5月01日 (日) 金属部会幹事会。

5月08日 (土) 日本熱処理技術協会・金属部会交流会。 **無料開催。CPD講演もあります。**

5月22日 (日) 金属部会定例部会 (6月) ブレークアウトルームで「金属とSDGs」を議論します。

## 3 最近の動き

◆CPD登録申請百人キャンペーンは、皆様のご協力もあり、31人までこぎつけました。初めてシステム登録をしたとの連絡もちらほら。食わず嫌いでいると一生食べられません、食べて見ると案外美味しいものもありますよね。キャンペーンは5月以降も続きます。金属部会100人目登録者にはいい事がありかもしれませんし、ないかもしれません。毎日登録者の公開を見ながら集計しています。◆新合格者歓迎会には9名の申込みがあり、歓迎側も大勢参加いただき感謝感謝です。翌日のバス見学会にも3人参加いただき、十分に今回の歓迎会の目的は果たせました。共催したYES-Metals!のメンバーも頑張ってくれてYES-Metals!の魅力が伝えられたと思います。これ、恒例にしたいですね。◆なんたって、会合をハイブリッドでやったのはアフターコロナの行事のありかたを確認できる第一歩でした。3年ぶりの見学会再始動。コロナ対策って、頭で考えるより実際に行動を確かめるのが大切だと気付かされました。正直、4月に思い切って踏み出してみても、手応えはありました。あせらずじっくりいきましょう。

## 4 和鐵管見 (その8)

◆和鐵の道楽は書籍執筆だ。でもそれが思わぬ事態を生む。台湾で翻訳出版されているはずの自書を台北の書店で夢中で探し、バスに乗り遅れて迷惑かけたとか、見ず知らずの学生から声を掛けられた(「生(なま)たなかさんですよ」という類)とか、あやしい筆跡の封書が届くとか(小学生からの質問状でした)、へんな質問メールがくるとか(防衛省関係と名乗る人からウラン精錬の細かい技術を聞かれたり、銀行からリサイクル技術への融資の可能性を聞かれたり、音大の先生からシューベルトの音楽における鉄鋼産業が関わる疑念をぶつけられたり、サンスクリット語の研究者から玄奘法師の金属に関する仏典への誤訳の確認とか、大学病院から戦後の鉄は放射線がでていて微量放射線を測定するために戦艦陸奥から鋼板を引き上げてシールドを作ろうと思うが核実験の放射線廃棄物は現代の鉄板に影響しているのかというびっくりするような話、とかとか) いろんな経験をする。◆しかし最近、東京で姪と会ったときに衝撃の事実を聞かされた。「おじさんの本が爆撃を受けたようだ」話は数年前に遡る。いきなり和鐵のところに「金属の基本がわかる事典を送って」と電話がきた。その時送った書籍は、来日中の姪のドイツ留学時代の知り合いのウクライナの友人の手に渡り、ウクライナのどこかの図書館の所蔵になっていたというのだ。その図書館が爆撃を受けたそうで燃えてしまったかもしれないという。◆自分が、正確には自分の書いた書籍が思わぬところで爆撃の当事者になるとは夢にも思わなかった。姪には「戦争が終わったら復興のお手伝いをしにいこう。その時は新刊を持っていくよ」と答えるのがやっとだった。技術士会のある部会では復興支援に我々が何ができるか、近々会合を開いて議論すると聞いた。本当に何ができるだろうか。みなさんどう思います?